

## さやえんどう

農薬取締法上、「さやえんどう」は「実えんどう」や「えんどうまめ」とは別の作物である。  
(実えんどうの項 参照)

「さやえんどう」には、「さやえんどう」「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

————— 発病・加害時期  
===== 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋	まき						収穫					● ●	
苗立枯病(リゾクトニア菌)												=====	
うどんこ病				—————	—————								
褐斑病				—————	—————								
アブラムシ類				—————	—————								———
ナモグリバエ				—————	—————							———	

### 苗立枯病

#### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 本ぼを土壤消毒する。(XⅢ土壤消毒 参照)
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
  - 【リゾクトニア菌 20~30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する  
は種または定植21日前/1回】

### うどんこ病

#### 留意事項

- 1 QoI剤<<11>>、SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 2 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

#### 防除方法

- 1 密植を避け、通風を良くする。
- 2 チッソ質肥料の過用を避ける。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [サンヨール](#) <—> 【500倍 前日/4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【3000~5000倍 前日/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [パレード20フロアブル](#) ≪7≫ 【豆類（未成熟） 2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [シグナムWDG](#) ≪7≫ ≪11≫ 【1500～2000倍 前日／2回】
- ・ [サンクリスタル乳剤](#) <—>  
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく）300～600倍 前日／—】

## 褐斑病

### 留意事項

- 1 QoI剤≪11≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 密植を避け、通風を良くする。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [スクレアフロアブル](#) ≪11≫ 【2000倍 前日／3回】

## ウイルス病

### 留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。
- 2 生育初期にアブラムシ類の防除に努める。

### 防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。【アブラムシ類の項 参照】
- 3 除草を徹底する。

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4A> 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A> 【4000倍 前日／3回】
  - ・ [マラソン乳剤](#) <1B> 【豆類（未成熟） 1000～3000倍 7日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000～4000倍 前日／2回】

## ナモグリバエ

### 留意事項

- 1 防除開始適期は3月上旬である。
- 2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >  
【ハモグリバエ類 9kg／10a 株元散布 生育期（収穫開始14日前）／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を10日間隔で2～3回散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【3000倍 前日／3回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 >  
【豆類（未成熟 除さやいんげん） ハモグリバエ類 2000倍 3日／2回】
  - ・ [プレバソフロアブル5](#) < 2 8 > 【ハモグリバエ類 2000倍 前日／3回】
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) < 5 > 【ハモグリバエ類 5000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。